

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol. 1 5 5】
添付ファイル: 薬物依存「再発防止へ地域や人のつながりを」福岡でシンポ (松本俊彦) - 毎日新聞.pdf; 田辺三菱製薬「デパス」製造者の知られざる歩みP6 _ 「合法薬物依存」の深い闇 _ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; 田辺三菱製薬「デパス」製造者の知られざる歩みP5 _ 「合法薬物依存」の深い闇 _ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; 田辺三菱製薬「デパス」製造者の知られざる歩みP4 _ 「合法薬物依存」の深い闇 _ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; 田辺三菱製薬「デパス」製造者の知られざる歩みP3 _ 「合法薬物依存」の深い闇 _ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; 田辺三菱製薬「デパス」製造者の知られざる歩みP2 _ 「合法薬物依存」の深い闇 _ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; 田辺三菱製薬「デパス」製造者の知られざる歩み _ 「合法薬物依存」の深い闇 _ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; 外来で年間12億錠も出される大問題なあの薬 : 日経メディカル .pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 300 カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HP の「お問合せ」** をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3)情報の中で「**拡散すべき情報**」があれば、皆さんの判断で「**転送・SNS 拡散**」してください。
- (4)また、皆さんが支援する政党があれば、**ベンゾジアゼピン薬害の実態を政党にお伝えください。**

【目次】

- 1-1. 第 5 回 : 田辺三菱製薬「デパス」製造者の知られざる歩み (添付)
- 1-2. 参考 : 外来で年間 12 億錠も出される大問題なあの薬 (添付)
2. 薬物依存「再発防止へ地域や人のつながりを」福岡でシンポ (松本俊彦) (添付)

【記事】

- 1-1. 第 5 回 : 田辺三菱製薬「デパス」製造者の知られざる歩み (添付)

<https://toyokeizai.net/articles/-/321500>

以下引用

『この国内抗不安薬市場で第 1 位となった当時のデパスの年間売上高は約 40 億~60 億円。国内の医療用医薬品市場では年間売上高 100 億円を超える製品も少なくない中ではかなり小粒だ。しかし、今以上に患者が精神科受診に高いハードルを感じていたがゆえに精神科の治療薬自体がそれほど使用されなかった当時としては、これでも存在感は大きかった。』(2 頁)

『その代表格が医療従事者の公定技術料である「診療報酬」の 2008 年 4 月改定時に導入された「後発医薬品調剤体制加算」である。これは患者から処方箋を受け取って薬を調剤する保険調剤薬局で、ジェネリック医薬品がある新薬では医師から変更不可の指示がない限り、薬局側の判断でジェネリック医薬品への変更を可能とし、このジェネリック医薬品の処方数量割合に応じて薬局側の調剤料に加算がつく仕組みだ。

つまりジェネリック医薬品に切り替えて処方するほど薬局の収入が増えることになる。』(4 頁)

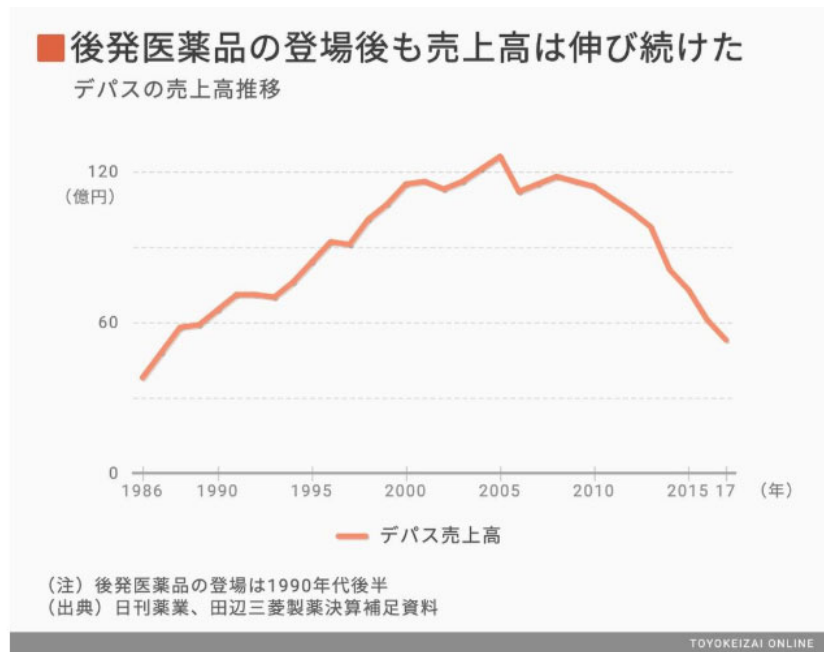
『このときの改定では、抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬のいずれかを 3 種類以上か抗不安薬

および睡眠薬を合わせて 4 種類以上処方した場合、医師が受け取る処方料、処方箋料を通常より減額することが決まった。これは複数種類の薬が漫然と長期間にわたって処方されていることが多い精神疾患での薬剤適正使用を狙ったものだ。

元社員は次のように語った。

「医師から『ほら、おたくのアレが切ること（処方中止）ができないから、今回の診療報酬改定でうちは減額されてしまうよ』と言われました。アレがデパスを意味することはすぐわかりました。』（5頁）

デパスが 1 年間に 12 億錠も処方されている実態がよく分かる記事である。



1990年代のジェネリック医薬品登場後もデパスの売上高は伸び続けた

第 1 回：合法的な薬物依存「デパス」の何とも複雑な事情（2019 年 11 月 29 日配信）

<https://toyokeizai.net/articles/-/316514>

第 2 回：20 年間「デパス」を飲み続ける彼女の切実な事情（2019 年 12 月 3 日配信）

<https://toyokeizai.net/articles/-/316660>

第 3 回：薬剤師が見たデパス「気軽な処方」が招いた実態（2019 年 12 月 6 日配信）

<https://toyokeizai.net/articles/-/317751>

第 4 回：「デパス」に患者も医者も頼りまくる皮肉な実態（2019 年 12 月 10 日配信）

<https://toyokeizai.net/articles/-/318168>

1-2. 参考：外来で年間 12 億錠も出される大問題なあの薬（添付）

<file:///C:/Users/MITSUYOSHI/Downloads/%E5%A4%96%E6%9D%A5%E3%81%A7%E5%B9%B4%E9%96%9312%E5%84%84%E9%8C%A0%E3%82%82%E5%87%BA%E3%81%95%E3%82%8C%E3%82%8B%E5%A4%A7%E5%95%8F%E9%A1%8C%E3%81%AA%E3%81%82%E3%81%AE%E8%96%AC%EF%BC%9A%E6%97%A5%E7%B5%8C%E3%83%A1%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%AB%E3%83%AB%20.pdf>

2. 薬物依存「再発防止へ地域や人のつながりを」福岡でシンポ（松本俊彦）（添付）

<https://mainichi.jp/articles/20191227/k00/00m/040/389000c>

以下引用

『松本さんは、薬物依存症は誰もがなり得る病気とし、過去の研究成果から「社会でつらい環境に置かれている人が少なくない」という実態を紹介。その上で「厳罰化による抑止を求めるより、病気の治療を優先し、患者への差別や偏見をなくす社会づくりが求められる」と強調した。』**としているが、この松本俊**

彦の発言は、真っ赤な嘘である。

その証拠は、全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会（BYA）【情報 Vol.153】の2-1項で紹介した元NHKアナウンサーの依存症予防教育カウンセラーの塚本堅一は、違法薬物に手を出した経緯を以下のよう

に述べている。
『なぜ薬物に手を出したのか。繰り返し聞かれてきました。ストレスやプレッシャーは確かにありました。新しい番組を任せられ、仕事は順調でもありました。多くの薬物使用者と同じように、何か大きなきっかけがあるというよりは、複合的なものでした。薬物は偶然見つけたウェブサイトで購入したキットを使い、自分でつくりました。かつては違法薬物ではなかったこともあり、気分転換ぐらいの感覚だったんです。』

つまり、多くの違法薬物使用者の「ゲートウェイは”気分転換ぐらいの感覚”なのであり、社会で辛い環境に置かれている人ではない。したがって、違法薬物を非犯罪化・非刑罰化すれば、違法薬物が爆発的に広がるのは火を見るより明らかである。

以上より、当会は、松本俊彦の主張の真の目的は以下の3つであると考えている。

- ① 違法薬物使用者への刑罰を廃止して、より多数の若年層の違法薬物依存者を創出すること。その結果、多くの違法薬物依存者を精神科病院へ送り、現在、精神科病院が長期入院患者の削減により経営が悪化している事態を回復させる目的がある。
- ② そして、その功績により、松本俊彦はNCNPの次期理事長・総長のポストを狙っているのである。
- ③ 松本医師自身の近辺の違法薬物使用者の隠蔽を企図している。

本「九州ブロック再犯防止シンポジウム」は法務省が主催しているため、当会は法務省に対して抗議書を郵送する。

法務省が現行刑法等に違反する松本俊彦を講師として招聘していることに呆れ返る。

福岡高等検察庁，九州地方更生保護委員会，福岡法務局，福岡矯正管区

http://www.moj.go.jp/hisho/saihanboushi/hisho04_000010.html



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史